

話し合うプロセスにおける体感を通して、子ども一人一人が「問い」を探究する

——「はんで意見をまとめよう」(三下)

足立区立桜花小学校主幹教諭

神永裕昭



本単元は、「一年生が本をすきになってくれるような、読み聞かせをする」ことを目的に、「どの本を読むか」を決めることが話し合い活動のゴールとなる。ものごとを一つに決める話し合い（考えをまとめる話し合い）は、どうしても意見をそぎ落としていく展開になりがちである。また、自分の意見に固執する子も出てくる。ポイント1は、話し合いを通して、「わたしの意見」「○○さんの意見」を「わたしたちの意見」へと、参加者の意識を変容させることである。この意識の変容は、話し合いのプロセスによって、参加者それぞれの中で引き起こされるものである。子ども一人一人が話し合いのプロセスを振り返り、「どうすればみんなが納得できる話し合いになるのか」と問い続けることで、話し合いにおける当事者意識が生まれ、他者との協働の場という話し合いの本質にも気づくことができるであろう。

単元計画（全8時間）

1時

- ・学習課題を確認し、単元の学習の見通しをもつ。

ポイント4

- ・本単元を通して探究する問いを共通理解する。

3時

- ・教科書35ページの二次元コードにアクセスし、話し合いの映像から、話し合いで大切なことを確認する。

ポイント2

4時

- ・どのような本を読み聞かせるか、グループの方向性を話し合う。

ポイント3

- ・「どうすればみんなが納得できる話し合いができるか」を、自分の体感を大切にしながら考え、グループ、学級で交流する。

ポイント4

- ※5時と6時の間でそれぞれが本を選んでくる

6時

- ・どの本を読み聞かせるか話し合う。

ポイント3

- ・「どうすればみんなが納得できる話し合いができるか」を、自分の体感を大切にしながら考え、グループ、学級で交流する。

ポイント4

8時

- ・本単元の学習を振り返り、学んだことを確かめる。

ポイント5

ポイント1

「問い」をもちながら話し合いに参加する

よい話し合いって、どんな話し合いだろう？
今までの話し合いを振り返って考えてみよう。

みんなが協力できた話し合い。

みんなが納得できた話し合い。

みんなの意見がまとまった話し合い。

みんなの経験から考えると、よい話し合いって、「協力」「納得」「意見がまとまる」が大切ということだね。今回は、この「納得」に注目して、「どうすればみんなが納得できる話し合いができるか」についてみんな考えていきましょう。

ポイント2

話し合いの進め方を確かめる

子どもたちのこれまでの話し合いの経験を振り返ったうえで、問いを設定する。子どもたちは、納得できる話し合いについての知識を外から得るので

はなく、一人一人が当事者として感じたことや気づいたことを出し合い、共有することで、問いを探究していく。

映像資料を用いることで、話し合いの進め方や、司会の役割、発言のしかたを具体的にイメージできる。一度、

最後まで視聴し、再度、映像を止めながら視聴して、話し合いのときに大切なことを学級全体で確認していく。

ポイント3

話し合いの実際の場を二回設定する

二回に分けて話し合いの場を設けている。まずは、「どのような本を読み聞かせるか」について話し合い、次に、その方向性に沿ってそれぞれが本を探

して持ち寄り、「どの本を読むか」を決める話し合いをする。子どもたちは、実際の場において「考えをまとめる話し合い」を二回、経験する。

ポイント4

話し合いを振り返る

その話し合いに、どのような場面があったから納得できたのか、どのように展開すればもう少し納得できたのか、感じたことや気づいたことをそれぞれが言語化し、共有する。この共有は、二回の話し合いのどちらに対して

も意見を出し合うことにとどめ、議論する必要はない。なぜなら、納得できたかどうかは個人的なものだからである。この振り返りで大切なことは、自分や他者はどうすれば納得できるのかを情報として共有することである。

ポイント5

本単元の学習を振り返る

振り返りは、自分の学びを価値づける行為である。本単元で設定した「どうすればみんなが納得できる話し合いができるか」という問いについて、自

分の体感から得た気づきとともに、二回の話し合いでの他者の振り返りの内容にも目を向けさせて、まとめさせた